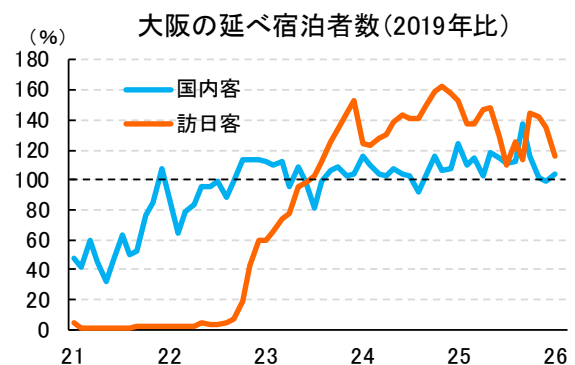
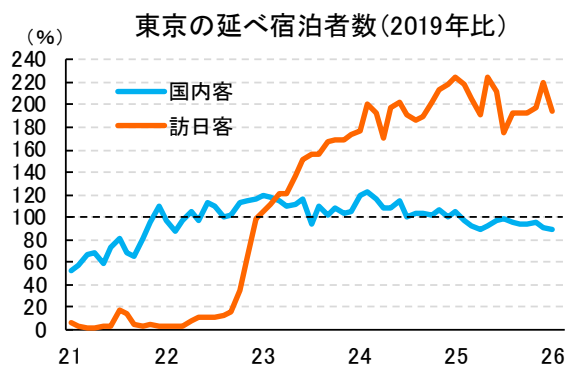
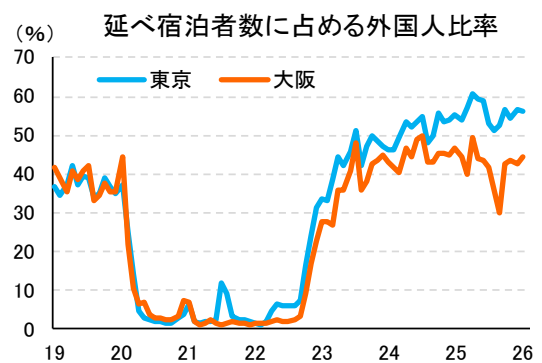
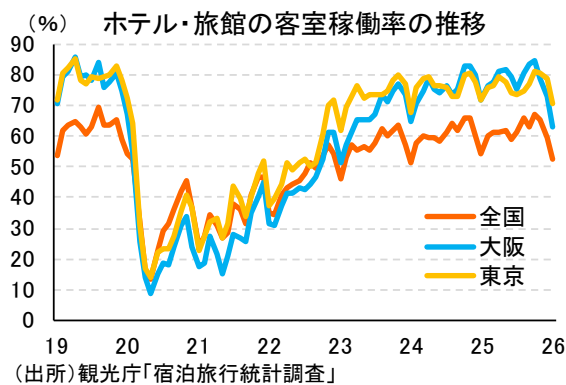


## 関西の景気トピックス【ホテル稼働率（26年1月）】

- 26年1月の宿泊旅行統計調査（観光庁）によると、季節的な動きもあり、やや低調な推移となっている。前年比でも全体的にマイナス傾向となる中、特に大阪の下振れが目立つ。これは主に中国の渡航自粛の影響とみられ、前年は1月が春節であったため、なおさら前年比で悪化しやすくなっている。
- 延べ宿泊者数に占める外国人比率については、東京と大阪の格差が開いている。東京が50%を上回る水準で、やや右上がりの推移が続く一方、大阪は40%前後で推移している。直近の12月、1月については、中国の渡航自粛の影響も出ているとみられる。
- 延べ宿泊者数のコロナ前比（19年比）について、国内客、訪日客の動きをみると、東京と大阪のトレンドには大きな違いがみられる。大阪では足元で外国人の動きがやや鈍化する一方、国内客は万博の閉幕後にいったん鈍化した後、直近数か月はやや底を打つ形となっている。これには、中国の渡航自粛が国内客の動きを後押しした部分もあるのではないかと推察される。一方、東京は料金の高騰などにより、国内客の動きが鈍い一方、外国人客は増加傾向が続いている。



本件照会先:大阪本社 荒木秀之  
 TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp